

【最優秀賞】

団体名	福井市キャリア教育連絡協議会
活動の内容（概要）	市内各種経済団体、企業の社員等が教育支援者として学校を訪問し、教科の学習内容と地域の企業の人づくり・ものづくり等をつなげた授業を支援している。市教育委員会では、これらを授業や行事等で活用しやすいように福井市キャリア教育プログラムとして一覧表にまとめ、学校に情報を提供することでキャリア教育を推進している。プログラムの実施においては、キャリア教育コーディネーターが中心となり、各種経済団体、企業、学校をつないでいる。

受賞理由

- 地域の実態や現状による課題に正対した実践であり、地域教育委員会がイニシアチブを執り、地域事業所等の教育力を活用し、児童・生徒とキャリア教育を進めていく、ベーシックプランとなり得る。学校現場を主体に進められるキャリア教育において、その普及性や継続性が続く可能性は高い。
- 学校と地域の協働的な活動のため、キャリア教育コーディネーターが重要な役割を果たしている。今後「社会に開かれた教育課程」の視点でカリキュラムを考え、深い学びを設計するに当たり、このような成熟した組織運営が必要であり、今後本取組を範として、全国に活動内容が広がることを期待したい。
- キャリア教育のねらいと方向性がはっきり示され、学校間、家庭、地域、企業との連携が具体的なプログラムに反映されている。また、教科の学習や行事などの活動と各団体の提供するプログラムとの関連性をまとめた一覧表の作成、活用は他の学校の参考になる。
- かねてから福井青年会議所、福井商工会議所青年部で蓄積されてきたアントレ・キッズなどの優れたキャリア教育実践を包含した包括的な実践となっている点を高く評価。

連携・協働している機関や団体、組織

【教育関係者（学校、教育委員会等の機関や団体）】

福井市教育委員会事務局学校教育課、福井市内全小学校50校、福井市内全中学校23校、福井大学

【行政や地域・社会、産業界等】

（公社）福井青年会議所、福井商工会議所青年部、福井経済同友会、福井市商工労働部しごと支援課、ふくいのかい手づくりプロジェクト

活動開始の経緯

【活動開始時期】平成24年～ 【継続年数】7年

平成24年度より、福井の子供達が夢や希望をもち、将来社会人として自立することができるよう、福井市キャリア教育連絡協議会（以下本連絡協議会）を立ち上げ、市内各種経済団体（以下各団体）と福井市教育委員会（以下市教委）が連携してキャリア教育の推進に取り組んでいる。平成28年度より、キャリア教育コーディネーター（以下コーディネーター）、小中学校代表の校長1名ずつを加え、現在に至っている。



<キャリア教育推進団体がプログラムを開催し、生徒たちからインタビューを受ける様子>

「協力性」についての具体的な取組, 工夫している点など

本連絡協議会は、行政から市教委、しごと支援課、産業界から福井青年会議所、福井商工会議所青年部、ふくいひの担い手づくりプロジェクト、福井経済同友会、福井大学と幅広い関係機関から構成されており、コーディネーターを中心に、各団体、企業、市教委、学校がつながる協働体制が確立されている。本連絡協議会の理念は、福井市の子供達がふるさと福井に誇りや愛着を持ち、地域や社会に貢献できる人材の育成である。そのために、子供達が地域の人やものに関わる機会を多く設けるため、職場見学や職場体験学習など子供達と企業がつながるための支援を行っている。

さらに、地域の団体、企業が独自で作成、提供している教育活動等を、学校の授業や行事等で活用しやすいようにキャリア教育プログラムとして一覧表にまとめ、学校に提供している。例えば、福井商工会議所青年部は、会員自らが職業・職種を紹介する「おしごと探検隊アントレ・キッズ」を提供。仕事の一部を体験し働くことの素晴らしさを伝えている。

福井青年会議所メンバーやOBによるふくいひの担い手づくりプロジェクトは、「地域（まち）の担い手づくりプログラム」を提供。社会人が子供達に、仕事の内容、やりがい・社会人として生きるとはどういうことかなどを伝え、子供達はその内容をまとめて発表する活動を実施している。



<「おしごと探検隊アントレ・キッズ」の活動の様子>

なお、これらのプログラムの実施には、コーディネーターが中心となり、学校と企業をつないでいる。

「継続性」についての具体的な取組, 工夫している点など

本連絡協議会は、年4回開催され、定期的に情報交換を行うことでPDCAのマネジメントサイクルを意識している。各団体、企業には、キャリア教育に関する体験やプログラムはあるが、学校とどのように関わるかという課題があった。逆に学校には、キャリア教育をどのように推進するとよいかといった課題があった。そのため、本連絡協議会は、福井市キャリア教育プログラムとして一覧表を作成し、教科の学習や行事等の活動と各団体の提供するプログラムとの関連性をまとめ、学校が活用しやすくした。

また、平成28年度から本連絡協議会には小中学校の代表校長1名ずつも参加し、学校の立場から要望や意見を述べている。また、団体、企業は実施後の学校からの報告書やコーディネーターの助言をもとに、提供しているプログラムが適切かを検討するなど、学校、各団体、企業がそれぞれの立場からプログラムや取組を分析し、修正、改善に努めている。

なお、このプログラムは福井市内の教職員が活用しているイントラネットに常時掲載され、教職員がいつでも見ることができる。また、これらの取組を支えているのが、コーディネーターであり、プログラムの実施にあたり、企業との段取りや連絡等、そして学校との日程、内容等の調整を行っている。コーディネーターは毎年委嘱し、継続して活動に取り組んでいる。プログラムを実施していくために予算をたてて執行するなど、行政の理解も支えとなっている。

「実践性」についての具体的な取組, 工夫している点など

市教委の学校教育方針は「地域に根ざす『学びの一貫性』」である。この目標のもと、地域との連携を図ることで、地域の人的・物的資源の活用を推進している。これにより、各小中学校は、これまで以上に地域とつながる教育課程の実施に取り組んでいる。今年度は各学校において、教科等の学習と地域が関わる取組を一覧表にまとめ、取組の目的をより明確にしている。その地域と関わる体験の一つとし

てキャリア教育プログラムを活用している学校がある。その際、カリキュラム・マネジメントの視点より、教科の学習内容とプログラムとを関連付けて実施をしている。例えば、小学3年生の国語科の教科書教材「すがたをかえる大豆」では、大豆が様々な食品に姿を変える学習を行い、その学習内容とつなげて、みその種類や分布を学んだり、みそを仕込む体験をしたりする「手造りみそ体験教室」プログラムを実施している。

また、中学校では、職場体験学習の事前学習として「美意識とマナーを学ぶ」プログラムを実施するところもある。美容師の仕事を通して、日頃から大切にしているマナーや身だしなみを学んでいる。総合的な学習の時間に「伝える力」をテーマに取り組んでいる学校では、「アナウンサー体験」プログラムを取り入れ、社会的・職業的自立に向けて身に付けなければならないコミュニケーション力を学んでいる。なお、PTAの親子行事等でも、キャリア教育プログラムが活用されることもある。

「発展性」についての具体的な取組、工夫している点など

キャリア教育プログラムは、小中学校の2学期制に合わせて年に2回更新することになっており、平成30年4月に福井大学と連携してプログラミング教育関連のプログラムを追加し、教科・領域等で新たに分類する改訂を行った。さらに9月には2つの企業、団体からエントリーの希望があり、全26プログラムとなった。今後も、このプログラムの周知、各団体、企業からのエントリー数を増やしていきたい。

さらに、プログラムに参加している団体、企業を福井市しごと支援課のHPに掲載することを検討している。これによりプログラムを提供している団体、企業を一般市民にも広報することで、より多くの協力を得られると期待している。

また、11月には、長野県上伊那8市町村からの視察があり、福井市のキャリア教育の取組を説明するとともに、コーディネーターの産学官の枠をこえた連携について情報交換等も行った。

キャリア教育プログラムを通して子供達は、地元で働く職業人の姿を直接見ることができる。身近な大人から話を聞いたり、体験の提供を受けたりすることは、職業を学ぶだけでなく、福井で働く大人達の輝く姿を目のあたりにするよい機会である。このことは、子供達のキャリア形成に大きくプラスとなるとともに、将来、福井で働きたいと思う一つのきっかけになると考える。

学校現場の評価・感想・コメント

どのプログラムも子供達が興味をもてるように、映像や実物、体験などの工夫がされており、子供達は興味・関心をもって意欲的に講義を聞くことができた。これらのプログラムを通して子供達は、やりがいや責任感をもって仕事をしていきたいと希望を語るなど、働くことを肯定的に受け取る感想を述べていた。

また、事前打ち合わせやコーディネーターの調整により、その職業の紹介だけでなく学校側のニーズにあわせて柔軟に対応してくださり、教育的効果を高めている。学校では、実物の準備や体験の指導が難しいものもあり、専門家から学ぶ機会を提供していただければ大変ありがたい。実物(教材)や現場で働く大人達の声は、教科書だけでは学べないものであり、意義のある取組となっている。

関係諸機関(行政・産業・地域団体等)からの評価・感想・コメントなど

(キャリア教育コーディネーター)

プログラム実施にあたり、市教委より各学校からあがった実施申請書を用いて連絡を受けることで窓口の一本化ができ、希望日や対象児童生徒のクラス数、人数の把握ができる。また、提供するプログラムがどのような学年の単元ならびに教科の学習内容に合っているのか企業側では分からない場

合があるので、市教委が提供プログラムの内容を把握し、一覧としてまとめているので参考になる。キャリア教育プログラムを活用することで、今まで実施していなかった学校で授業ができたり、プログラムを通して知り合った教員が異動した際に次の学校で実施したりするなど、拡がりが出てきている。(ふくいの子の手づくりプロジェクト)

独自で開催していた当団体のプログラムだが、福井市キャリア教育連絡協議会のコーディネートを受け、福井市の予算も付き、初めての学校からの要望も増え、拡がりをもつことができた。今後も連携して福井の子供達のために活動していきたい。